

## 第6節 整理作業の方法と経過

### 1. 整理の方法

遺構図面は測量用ソフトで平面図を記録したものを、土層断面図は基礎整理した後の原図をスキャナーでコンピュータに取り込み、それらを下図として図面編集ソフトによりデジタルトレースした。平面図と断面図の整合作業は、図面編集ソフト内で行った。

遺物の洗浄は、瓦にはハイ・ウォッシャーを用い下洗いをし、その後にその他の遺物と同様に手作業で洗浄した。注記はジェットマーカーにより行った。その後に、接合・抽出作業を行い、その中から登録遺物を選別した。破損の可能性がある遺物は復元作業を行った後、実測をした。遺物の実測は調査員および作業員が手描きし、その原図をスキャナーでコンピュータに取り込み、それを下図として図面編集ソフトによりデジタルトレースした。

### 2. 整理作業経過

#### (1) 平成 19 年度

##### 新堤地区

野外調査が終了後、1月7日から整理作業を本格的に開始した。遺構平面図・土層断面図の整理作業を行うとともに、現地調査期間中から開始していた遺物の洗浄・注記作業を行った。3月29日までに遺物・その他の資料を、仙台市文化財課高砂収蔵庫へ納入、現場事務所を撤収して、本年度の全ての作業を終了した。

##### 蟹沢地区

野外調査が終了し、11月29日から整理作業を本格的に開始した。遺物の水洗洗浄・注記作業と並行して遺構平面図・土層断面図の基礎整理作業を行った。3月29日までに遺物・その他の資料を仙台市文化財課高砂収蔵庫へ納入、現場事務所を撤収して、本年度の全ての作業を終了した。

#### (2) 平成 20 年度

##### 新堤地区・蟹沢地区

整理事務所を仙台市宮城野区鶴ヶ谷東に設置し、7月15日から整理作業を開始した。遺物・その他の資料を仙台市文化財課高砂収蔵庫から搬入後、遺物調書の作成を行い、並行して遺物の接合・抽出・登録・拓本と復元作業を行った。同時に、実測・デジタルトレースを行い、遺物の写真を撮影した。3月27日に、本年度の全ての作業を終了した。

#### (3) 平成 21 年度

##### 新堤地区・蟹沢地区

平成 20 年度の整理作業に引き続き、6月1日から整理作業を再開した。遺物の接合・抽出・登録作業を行い、その後、拓本・復元作業を行った。遺物の実測は拓本・復元作業の終了後行った。遺物の写真撮影は、断続的に継続した。並行して遺物のデジタルトレースを行った。また、サンプルとして採取した窓壁のバインダーによる強化処理を行った。デジタルトレースと並行して、遺構・遺物の版組・レイアウトおよび遺構・遺物の図版・観察表の作成を行い、これをもとに報告書を作成した。

## 第2章 新堤地区

### 第1節 基本層序と自然地形

#### 基本層序（第9図）

調査区周辺は、東西に延びる丘陵を谷が南北に間析する地形であり、調査区は、丘陵頂部付近のやや平坦な面、谷部へと向かう丘陵斜面、谷部にあたる。

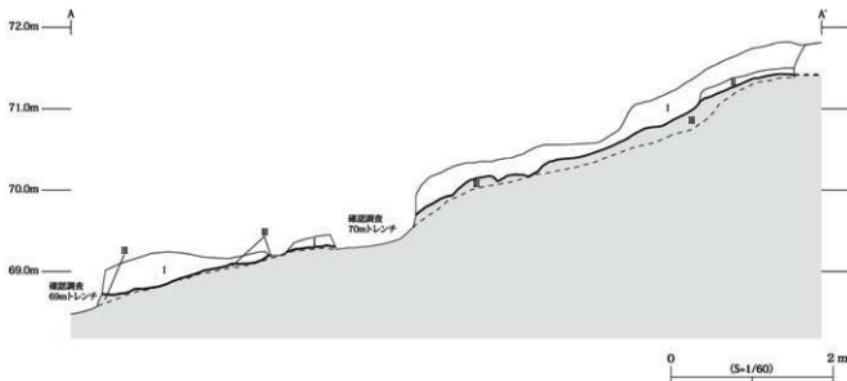
調査範囲が広範囲におよんでおり、それぞれの部分で若干の違いはあるが、新堤地区の基本層序は以下の通りである。

I層：黒褐色（10YR3/2）シルト層である。木の根・木の葉等を含んでおり、丘陵斜面全域で認められる。表土層である。

II層：灰黄褐色（10YR4/2）シルト層である。谷部へと向かう丘陵斜面の一部のみに分布する。

III層：にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルト層である。径2～10mm程度の砾を含む地山である。本層の上面が、遺構検出面である。下層は、にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の粘土質シルトとなる。西側丘陵頂部付近、7～10号窓跡の周囲では、さらに下層の白色粘土質シルト・凝灰岩質砂岩が露出しているところがある。白色粘土質シルトの層厚は、5cm未満である。

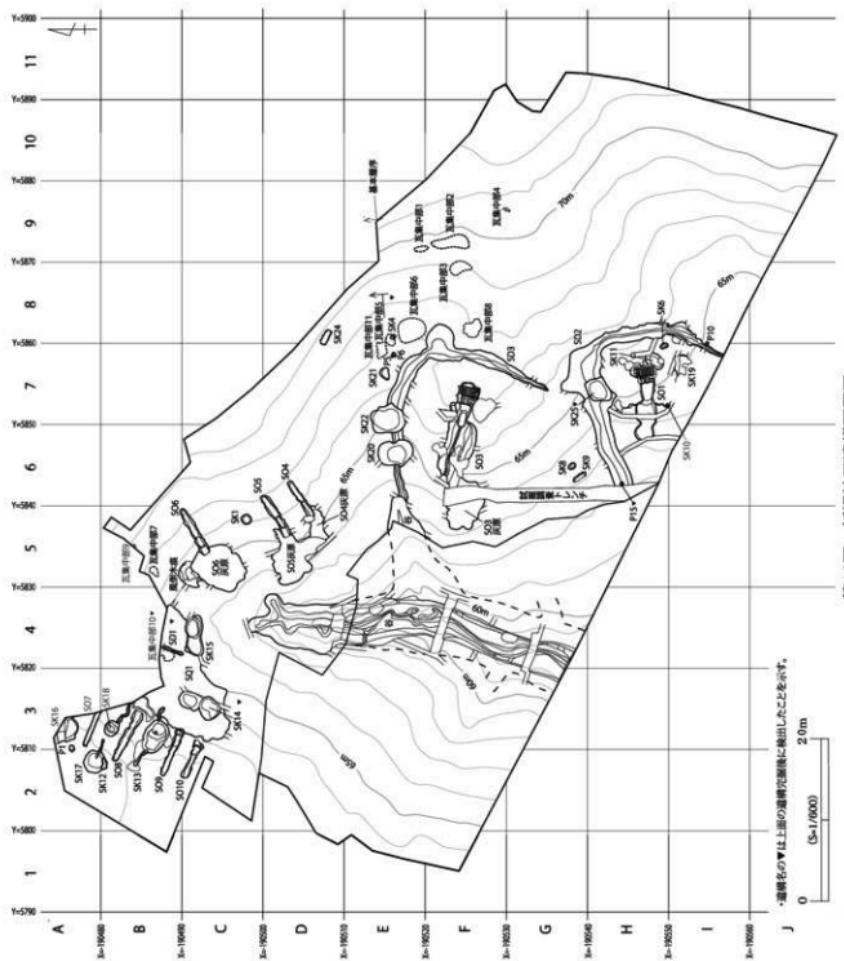
I・II層からは、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・棟平瓦・鬼瓦・隅切瓦・土師器・土師器須恵器・鏡・石器・石製品・陶器・近世瓦が出土している。総破片数は22,198点で43点を図示した（第150～158図）。



第9図 基本層序(新堤地区遺構配置図A-A')

#### 谷（第11・12図）

谷は、調査区のやや東寄りC-D4、E-4～6、F-4・5、G-3・4グリッドに所在する。C-4グリッドに谷頭があり、南側は調査区外へ延びる。E-F-5、G-4グリッドから東側へ、F-3グリッドから西側に分岐する支谷が認められる。支谷の谷頭はE-5・6グリッドにあり、谷頭部には3号窓跡に付属する排水溝(3号溝)が連続している。谷の規模は、長さ40m以上、上端幅6mである。支谷の規模は、谷頭部分のみの調査のため明確ではないが、長さ13m、上端幅は5～6mである。谷の堆積土の厚さは、谷頭付近で1m、Aラインで70cm、Bラインで1.1m、Cラインで1m



第10図 新堤地区遺構配置図

である。断面形は「U」字形である。底面は滑らかであるが、部分的に凹凸がみられる。

堆積土は12層に分けられる。3層上面で灰白色火山灰を確認した。6・9・11層からは、比較的多くの遺物が出土している。谷は周囲の斜面からの流入堆積層によって、徐々に埋没している。

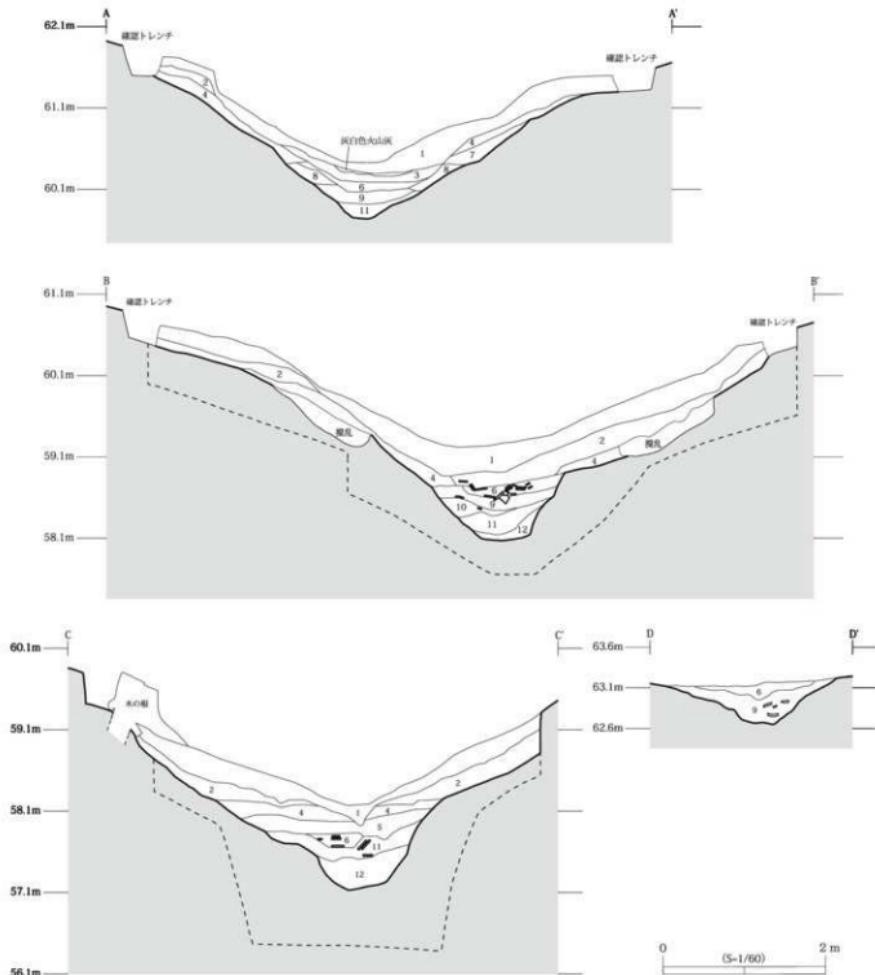
遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・棟平瓦・鬼瓦・土師器・須恵器が出土している。総破片数は1,668点で、10点を図示した(第151・152図)。

## 第2節 新堤地区の遺構と遺物

新堤地区で確認した遺構は、平窓2基・窓窯7基・灰原1ヶ所・溝1条・土坑20基・ピット5基の総数36基である。その他に、瓦集中部11ヶ所を確認した(第10図)。



第11図 谷平面図



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	灰黃褐色YR4/2	粘土質シルト	上半部は粘土質シルト(灰・黄褐色)で、表面に灰・褐色と瓦礫を含む。下半部にシルト(灰・黄褐色)10YR4/2を帯び、粘土質シルト(灰・黄褐色)小ブロックを多量。植物遺体を帶びて極多量含む。	7	褐灰10YR3/3	シルト	下部に粘土質シルト(灰・黄褐色)を帶びて多量含む。
2	灰黃褐色10YR4/2	シルト	下部に粘土質シルト(灰・黄褐色)含む。	8	黒10YK2/1	粘土	粘土質シルト(灰・黄褐色)と瓦礫をなす。炭化物粒・鈣化鉄を微量含む。
3	褐灰10YR4/1	粘土	鈣化鉄を多量含む。上部に火山灰小ブロックを少量含む。中部に粘土質シルトを少量含む。下部に粘土質シルト(灰・褐色)を帶びて多量含む。	9	褐灰10YR4/1	粘土	鈣化鉄を多量含む。炭化物粒を微量含む。
4	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	鈣化鉄を少量含む。	10	灰黃褐色10YR4/2	粘土質シルト	粘土(暗色)と瓦礫をなす。鈣化鉄を少量含む。炭化物粒を微量含む。
5	黑褐10YR3/1	粘土	中一下部に粘土質シルト(暗褐色)大ブロックを多量含む。その部分に粘土(暗色)大ブロックを少量含む。鈣化鉄を含む。	11	褐黃10YR3/1	粘土	鈣化鉄を少量含む。炭化物粒を微量含む。
6	褐灰10YR4/1	粘土	鈣化鉄を多量含む。炭化物粒を微量含む。	12	灰-2.5Y6/4	砂質粘土	下部は砂(褐褐色)を帶びて含む。炭化物粒を微量含む。

第12図 谷土層断面図

遺構はすべて表上直下のⅢ層上面で検出した。窯跡は、立地等から見て、下記の3群に分けて把握できる。調査区のやや東側を南北に延びる谷の谷頭上方の西側斜面に一群（7～10号窯跡）、谷頭上方の北側斜面に一群（4～6号窯跡）、谷を望む東側斜面に一群（1・3号窯跡）がそれぞれ位置する。2号窯跡は、調査当初検出したプラン内に多量の焼土が混入しており、西側と南側が削平された窯室と判断して調査したところ土坑（19号土坑）であることが判明したため欠番とした。窯はⅢ層を掘り込み、床面・壁を構築した上で天井を架構したと考えられる。後世の削平のため、上部施設（煙出部・天井部）は残存していない。また、窯体側壁内外などから、炭化した構架材を確認した。灰原は、全ての窯跡で認められた。7～10号窯跡では、各窯体と1号灰原の位置関係から灰原を共用していたことが考えられる。

窯跡からは、丸瓦・重弧文軒平瓦、單波文軒平瓦、平瓦・棟平瓦・鬼瓦などが出土している。今回調査した窯跡からは須恵器も出土しているが、出土量が極めて少ないと、出土した層位が堆積土の上層であること、歪み・ヒビ等の入ったものが認められることなどから窯跡は瓦専用窯であったと考えられる。

溝跡は、3条を検出したが、2条は1・3号窯跡に伴う施設である。

土坑は、調査区の北側斜面で2基（1・15号土坑）、東側斜面で12基（4・6・8～11・19～22・24・25号土坑）、西側斜面で6基（12～14・16～18号土坑）を確認した。

ピットは組み合うものもなく、詳細は不明である。

瓦集中部は、Ⅲ層直上に瓦が集中していた部分で、その中心は3号窯跡上方の東側斜面である。

今回の発掘調査の結果、都市計画道路の設計が変更され、2基の平窯の上部に架橋することになり、検出した窯跡9基全てが現状保存となった。そのため、全ての窯跡の窯体は断ち割り調査をせず、床面上に施設として敷設された瓦は窯跡の一部として現状のまま保存することとした。路線上にある1・3号窯跡では周囲の橋脚設置部分にトレーナーを設定し、整地層の調査を実施した。

## 窯跡

### 1号窯跡（S01）（第13～52図・第5表）

**【確認状況】** 調査区の東側斜面、G-7、H-I-6～8グリッドに位置し、丘陵から南側に樹枝状に延びる台地付根部付近の、西側斜面に構築されている。搅乱により削平されている部分もあるが、窯体の残存状態は良好である。11号土坑・25号土坑と重複しており、本遺構が古い。本窯跡の北側に隣接する3号窯跡の窯体との間隔は、19.65mである。本窯跡は岩盤まで掘り込み、床面・壁面を構築している。天井部は、窯体内の堆積層の状況から、スサ入り粘土によって架構したと考えられる。窯体の周囲には、Ⅲ層を主体とする明黄褐色・にふい黄褐色・淡赤橙色を示す整地層（A～G）が認められる。整地層の周囲には、Ⅲ層が黒色（暗色）化した部分が認められる（註）。また、窯体及び窯体周囲の被熱状況は、平面的な観察のみにとどまる。

（註） 東北学院大学教養学部地域構想学科教授であり、地形学がご専門の松本秀明氏に現地をご覧いただき、「この部分は下層の漸移層的で、混入物も（混入度合いに多少の違いはあるものの）同じであること。自然堆積層の混入物は倒れていることが多く、本例も同様であることから、連続した堆積物の上部が土壤化し、黒色（暗色）化したもので、Ⅲ層の一部と考えられる」とのご教示を得た。

**【窯体構造】** 半地下水式有牀（ロストル）式の平窯である。

**【規模】** 燃成部～前底部までの窯体の全長は、9.25mである。

**【中軸線の方向】** 燃成部～前底部を通す中軸線の方位はN-88°-Eである。

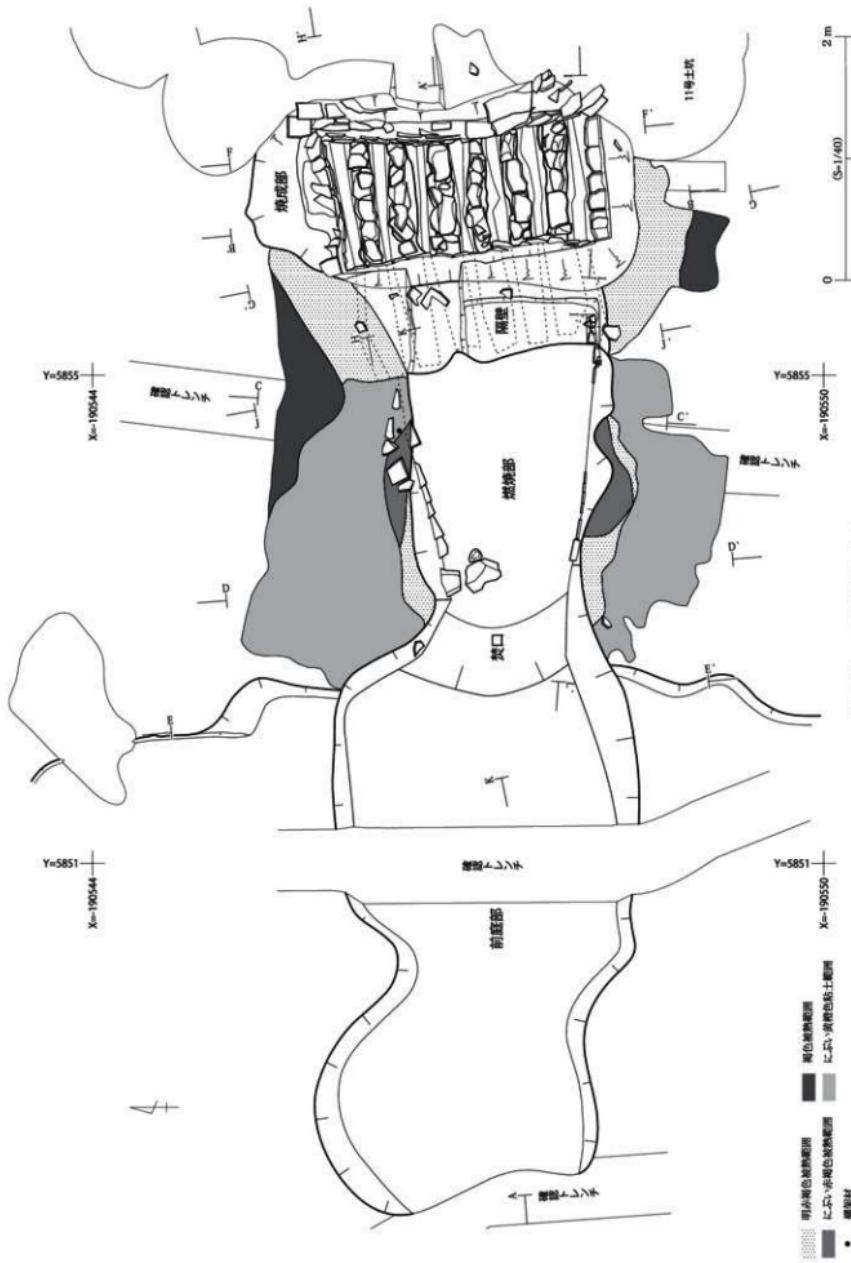
**【操業面数】** 2面（A期：構築時床面、B期：細別17層上面）

**【煙出部】** 残存しない。

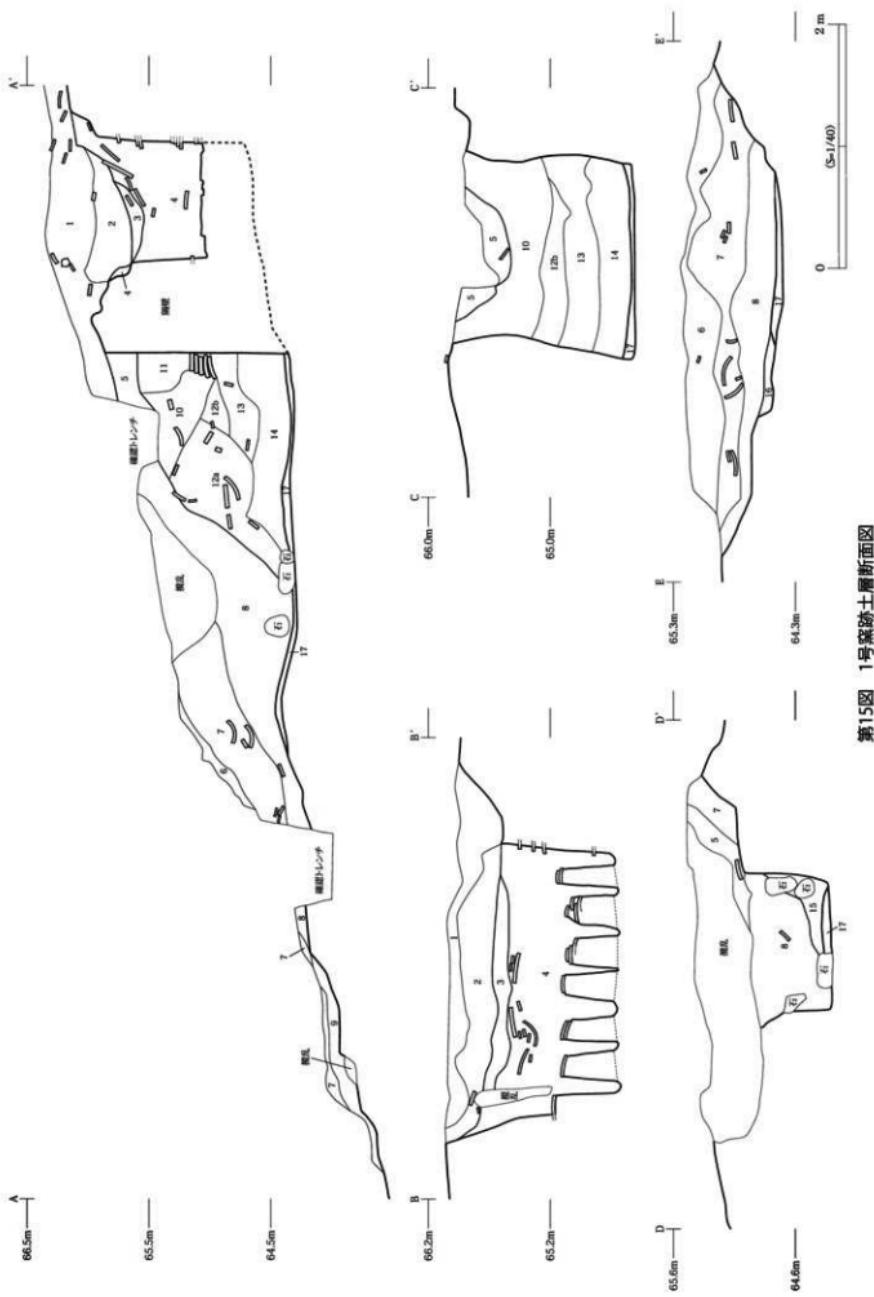


- A -

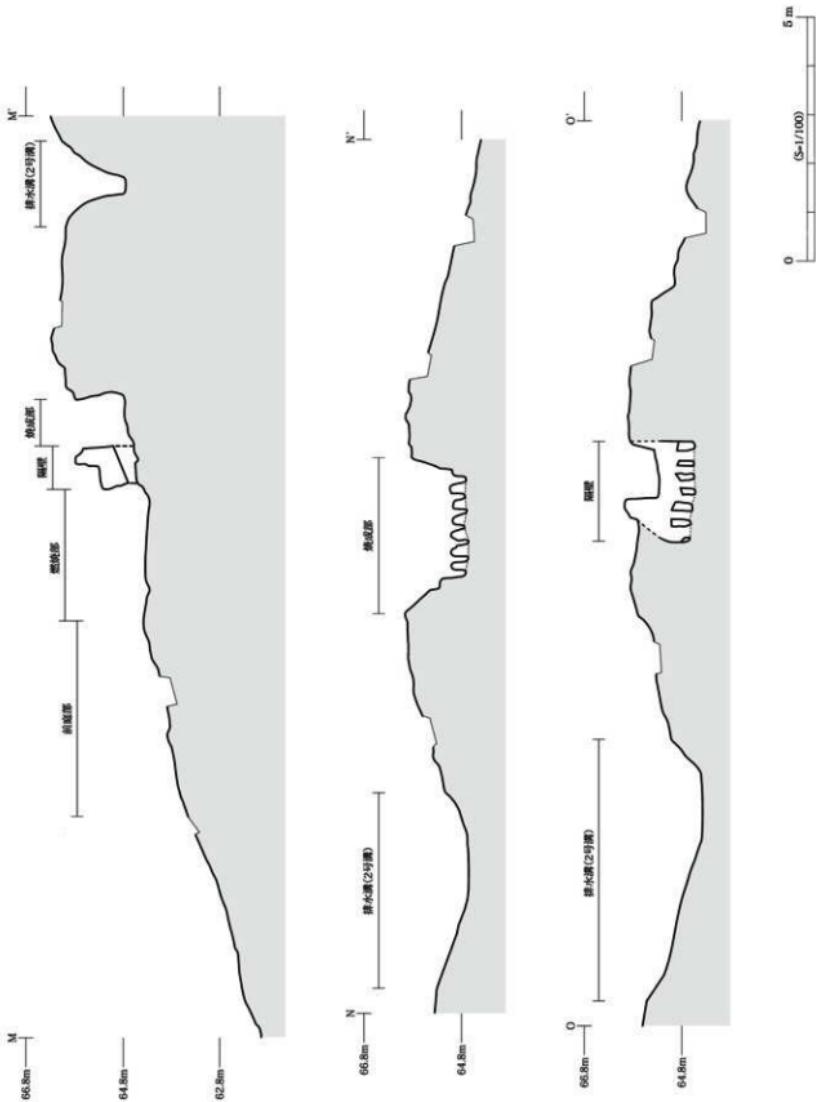
第13図 1号家跡平面図



第14図 1号窓跡平面図



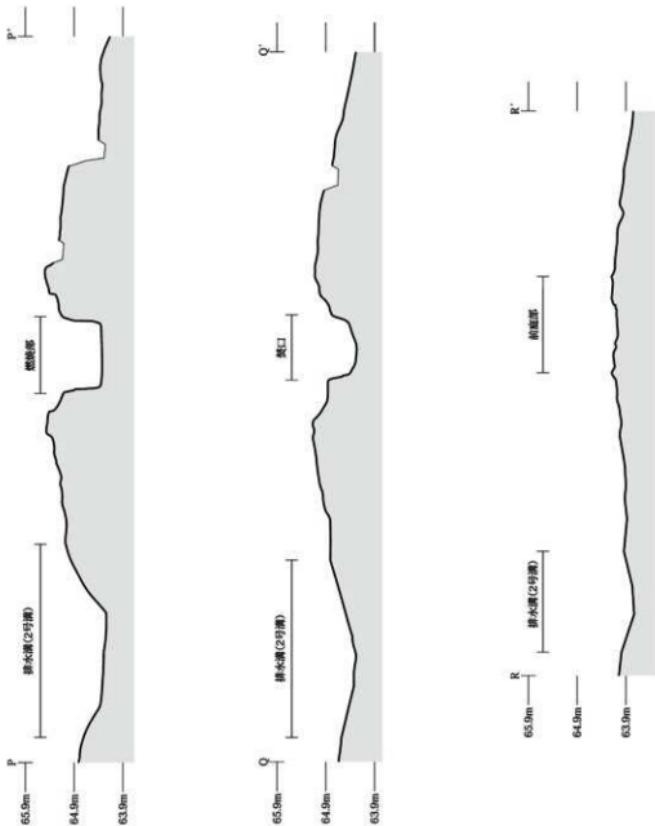
第11図 1号新堤土層断面図



第16图 1号探井断面图(1)



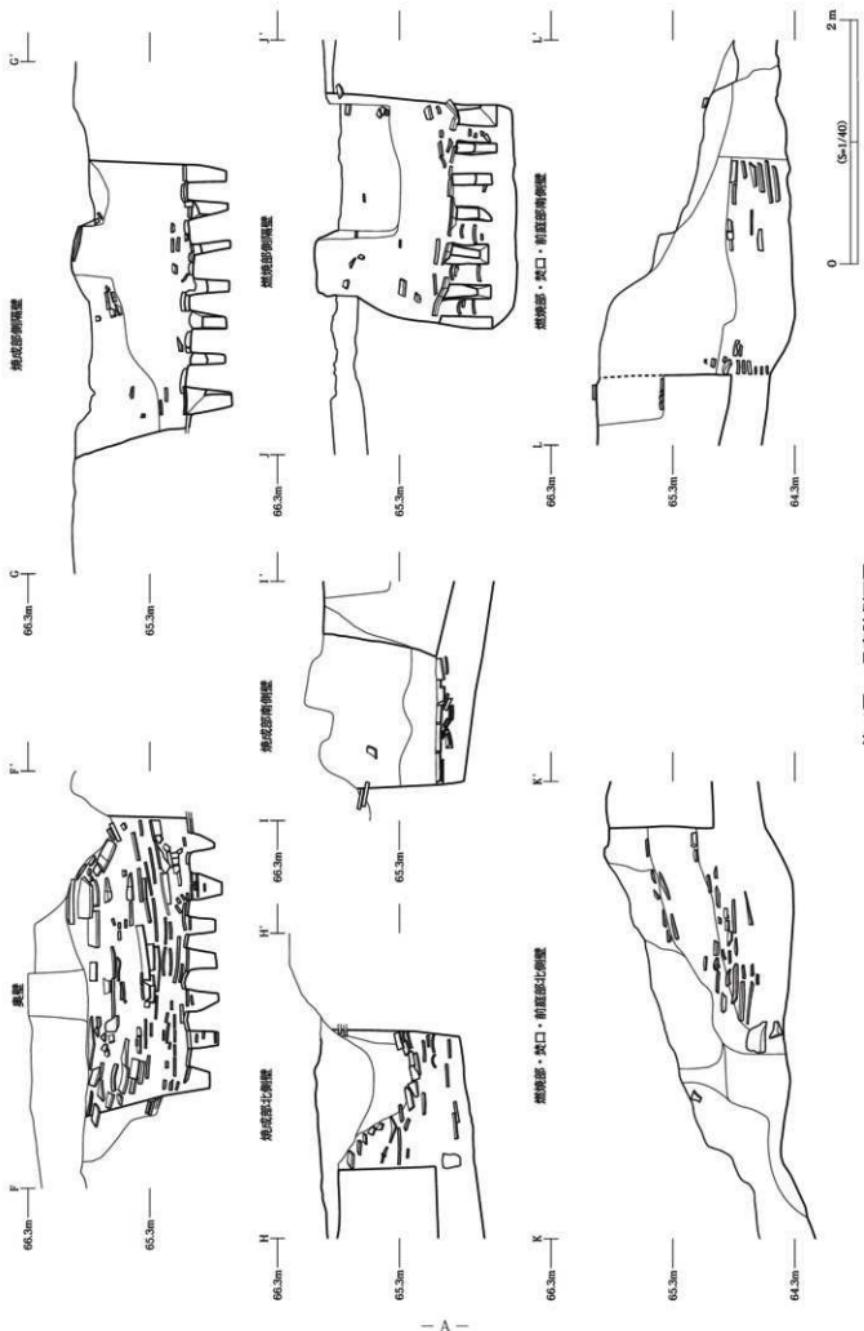
第17図 1号竪跡断面図(2)



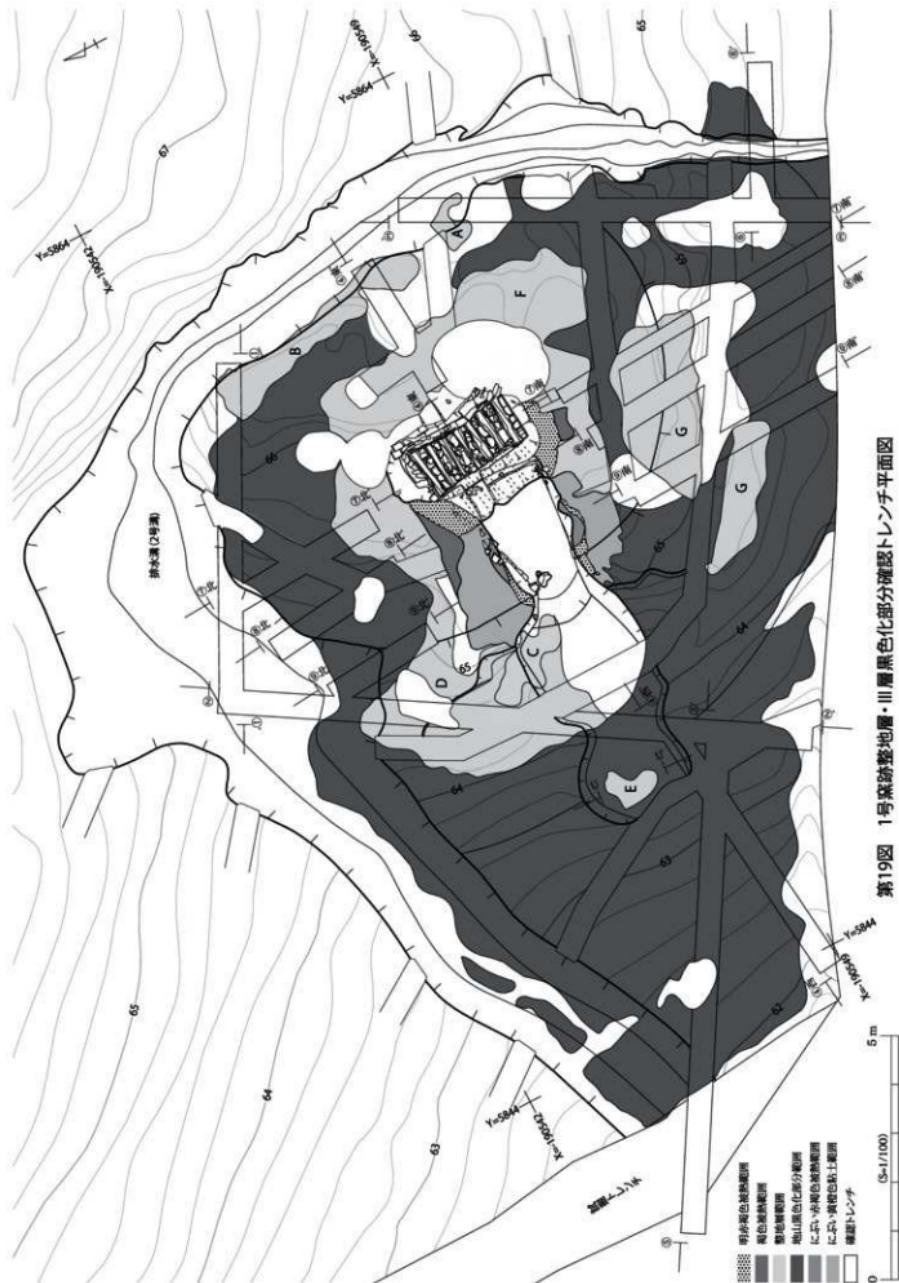
**【焼成部】** 規模は下端で計測して、奥行き 1.0 ~ 1.1m、幅 2.1 ~ 2.2m、検出面から床面までの壁高は 1.35m である。平面形は、上端では隅丸長方形で、下端は奥壁部が内側に曲がり張り出す長方形である。床面に凹凸は認められず、奥壁から隔壁に向かって 8° の角度で傾斜する。

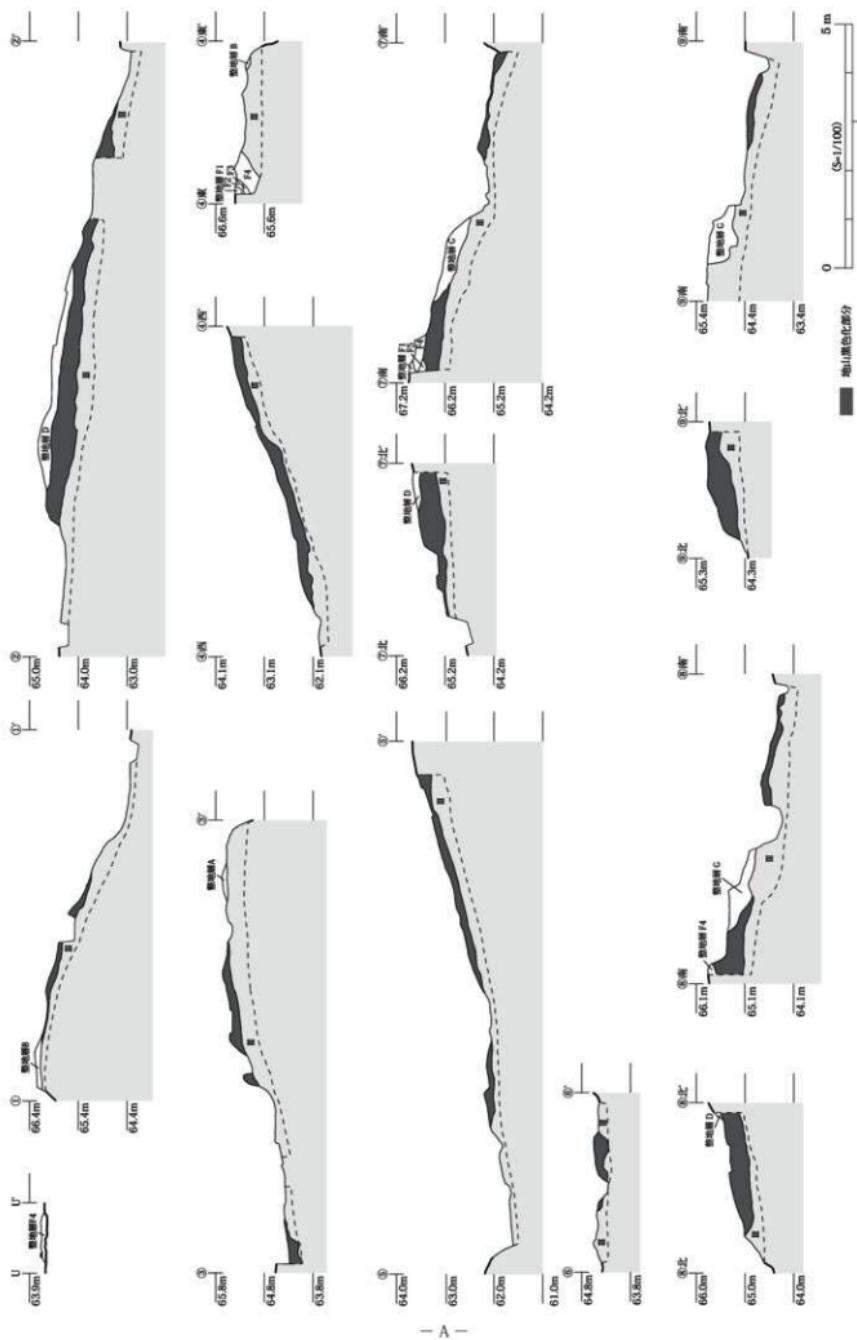
四方の壁は、縦長に半截した平瓦の凸面を上に置き、長辺を壁面と合わせ、スサ入り粘土と交互に積み重ねている（写真 4-11・12、5-3）。隔壁及び北側壁の表面には、スサを入れていない粘土を貼っていた痕跡が認められるが、隔壁を除き、四壁のほとんどの部分で剥落し、壁を構築した瓦積みが露出している。四壁の瓦積みは、北側壁及び奥壁で 20 段以上、隔壁で 10 段以上を確認した。南北両側壁は、床面からほぼ垂直に立ち上がっている。南側壁には、瓦積みが崩落した部分が認められる。この部分の補修は、スサを入れていない粘土を貼った痕跡が認められ、再度の瓦積みは行っていない。瓦積みは、奥壁が積み上げられた後に、北側壁が積まれていた。南側壁は瓦積みが崩落しており、明確ではないが、部分的に残存している部分から、同様であったと考えられる。

分塗牀と奥壁の関係は、分塗牀が奥壁構築後に構築されている。分塗牀は隔壁西側端部から奥壁方向に向かって、縦長に半截した平瓦の凸面を上に置き、スサ入り粘土と交互に積み重ねて構築している。分塗牀は幅 20cm 前後、高さ 45 ~ 50cm（瓦 10 段以上）、隔壁の下部を含めた長さは 1.8 ~ 1.9m である。側壁と各分塗牀の間には、

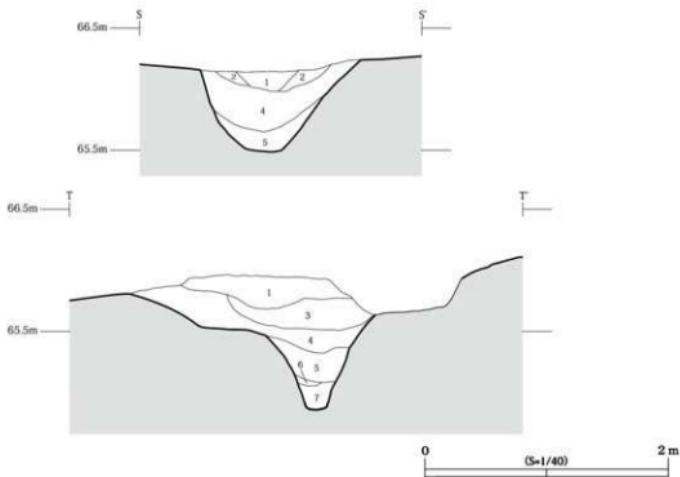


第18图 1号探路侧面图





第20図 1号窓跡整地層・Ⅲ層黒色化部分確認トレシ土層断面図



第21図 1号窓跡排水溝(2号溝)土層断面図

## 1号窓跡

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐色7SYR4/4	粘土質シルト	流入堆積物(大崩)層。砂土粒・礫を含む。炭化物粒を微量含む。下部に礫土を帯状に含む。	10	褐色10YR4/4	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。礫を含む。上部に粘土(△-Ⅳ)中ブロックを少量含む。底土を微量含む。炭化物粒を微量含む。
2	明赤褐色SYR5/8	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。砂土大ブロックを極多量含む。	11	褐色10YR4/4	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。礫を含む。
3	に近い黄褐色10YR7/3	砂質シルト	流入堆積物(大崩)層。赤褐色大崩山一部に粘土質シルト(礫土)を少量含む。	12a	に近い赤褐色SYR4/4	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。大山(赤△-Ⅳ)大ブロックを含む。底土を微量含む。炭化物粒を極微量含む。
4	明赤褐色SYR5/8	粘土質シルト	流入堆積物(大崩)層。砂土を含む多量含む。下部に粘土質シルト(△-Ⅳ)大ブロックを多量含む。	12b	に近い黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。砂土・礫を少量含む。炭化物粒を極微量含む。上部に粘土(△-Ⅳ)層を帶状に含む。
5	に近い黄褐色10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積物(大崩)層。上部・下部に粘土大ブロックを多量含む。粘土(△-Ⅳ)大ブロックを含む。砂土・礫を多量含む。炭化物粒を微量含む。	13	に近い赤褐色SYR4/4	粘土質シルト	赤褐色堆積物(大崩)層。粘土シルトにぶい黄褐色大ブロックを多量含む。粘土(△-Ⅳ)大ブロックを含む。礫を少量化含む。炭化物粒を微量含む。
6	褐色10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積物(大崩)層。砂土大ブロックを多量含む。粘土(△-Ⅳ)大ブロックを含む。砂土・礫を少量化含む。炭化物粒を微量含む。	14	赤褐色SYR4/8	粘土質シルト	豊原堆積物(大崩)層。中位に砂質シルト(△-Ⅳ)層と砂質シルト(△-Ⅳ)層とを隔てて、豊原堆積物シルト層が周囲に分布する。
7	に近い黄褐色10YR4/3	シルト	流入堆積物(大崩)層。上部に赤褐色大崩山(△-Ⅳ)堆積物を含む。ブロック層に多量含む。下部に粘土質シルト(△-Ⅳ)・黄褐色10YR5/4を带状に含む。砂土を含む多量含む。礫を少量化含む。炭化物粒を微量含む。	15	赤褐色SYR5/6	粘土質シルト	豊原堆積物(大崩)層。粘土シルトにぶい黄褐色大ブロックを多量含む。粘土(△-Ⅳ)大ブロックを多量含む。礫を少量化含む。
8	褐色10YR3/4	シルト	流入堆積物(大崩)層。炭化物粒を多量含む。砂土を帶状に含む。	16	オリーブ緑2.5YR4/6	粘土質シルト	豊原堆積物(大崩)層。炭化物粒を含む。砂土層を微量含む。上部に粘土質シルト(△-Ⅳ)層を含む。礫を微量含む。
9	に近い黄褐色10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積物(大崩)層。東平野にシルト(△-Ⅳ)に近い黄褐色を帶状に含む。礫を含む。	17	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	豊原堆積物(大崩)層。砂質シルト(△-Ⅳ)を帶状に微量含む。粘土粒・炭化物粒を微量含む。

## 1号窓跡排水溝(2号溝)

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	に近い黄褐色10YR3/3	砂質シルト	流入堆積物(大崩)層に砂質シルト(△-Ⅳ)層を帯状に含む。砂土・礫を微量含む。	5	に近い黄褐色10YR5/4	砂質シルト	流入堆積物(△-Ⅳ)層を含む。礫を微量含む。
2	黒褐色10YR3/2	シルト	流入堆積物(大崩)層。砂土を含む多量含む。	6	褐色10YR4/4	砂質シルト	流入堆積物(△-Ⅳ)層を含む。礫を微量含む。
3	灰褐色10YR4/2	砂質シルト	流入堆積物(大崩)層。粘土質シルト(△-Ⅳ)小ブロックを多量含む。	7	黒褐色SYR5/6	砂質シルト	流入堆積物(△-Ⅳ)層を帯状に微量含む。
4	黄褐色10YR5/6	砂質シルト	流入堆積物(△-Ⅳ)層を少量化含む。				

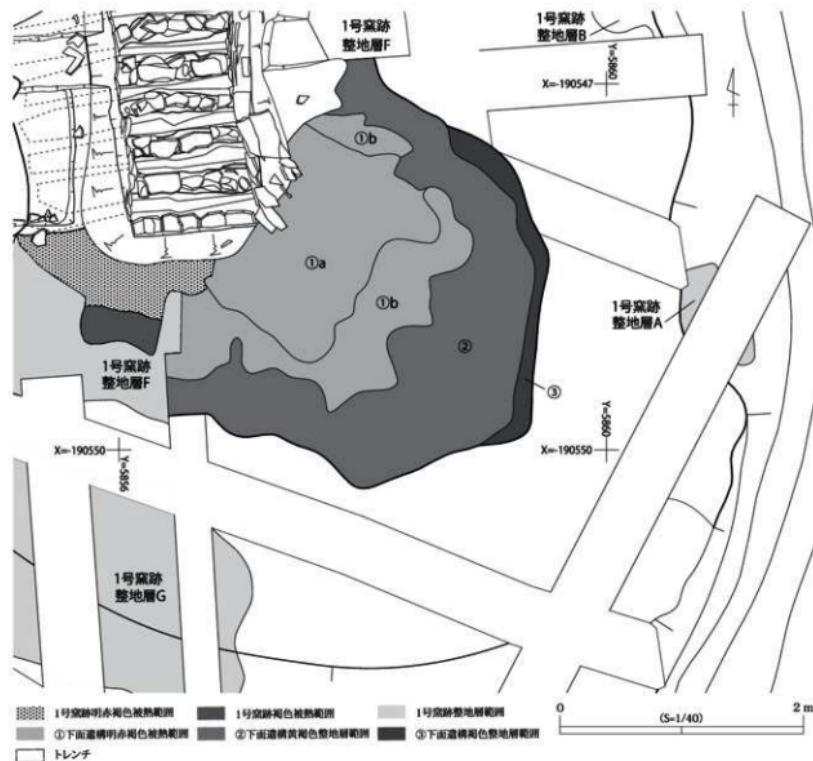
## 1号窓跡地盤・II層黑色化部分

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
被熱 層 A	明赤褐色10YR6/5	砂質シルト	礫を多量含む。	整地 層F1	黒褐色10YR5/6	砂質シルト	砂土・礫を含む。
被熱 層B	明赤褐色10YR6/5	砂質シルト	礫を多量含む。	整地 層F2	明赤褐色SYR5/6	粘土質シルト	礫を含む。
被熱 層C	明赤褐色10YR6/5	砂質シルト	礫を多量含む。	整地 層F3	明赤褐色SYR5/6	粘土質シルト	礫を含む。
被熱 層D	明赤褐色10YR6/5	砂質シルト	礫を含む。砂土粒・炭化物粒を微量含む。	整地 層F4	明赤褐色10YR6/5	砂質シルト	礫を含む。砂土粒・炭化物粒を微量含む。
被熱 層E	に近い黄褐色10YR6/3	砂質シルト	砂土・礫を多量含む。砂土粒・炭化物粒を多量含む。	整地 層F5	に近い黄褐色10YR6/4	粘土質シルト	礫を少量化含む。
被熱 層F	明赤褐色SYR5/6	砂質シルト	砂土・礫を少量化含む。	整地 層F6	に近い黄褐色10YR5/4	砂質シルト	砂土・炭化物粒を微量含む。

幅 10 ~ 20cmの7本の焰道があり、隔壁下部の通焰孔とつながっている。

床面・壁面は、被熱により極めて強く赤色化し、硬化している。窓体周囲の被熱状況は、窓体に近い部分では明赤褐色であり、離れた部分では褐色である。

構架材は確認されなかった。

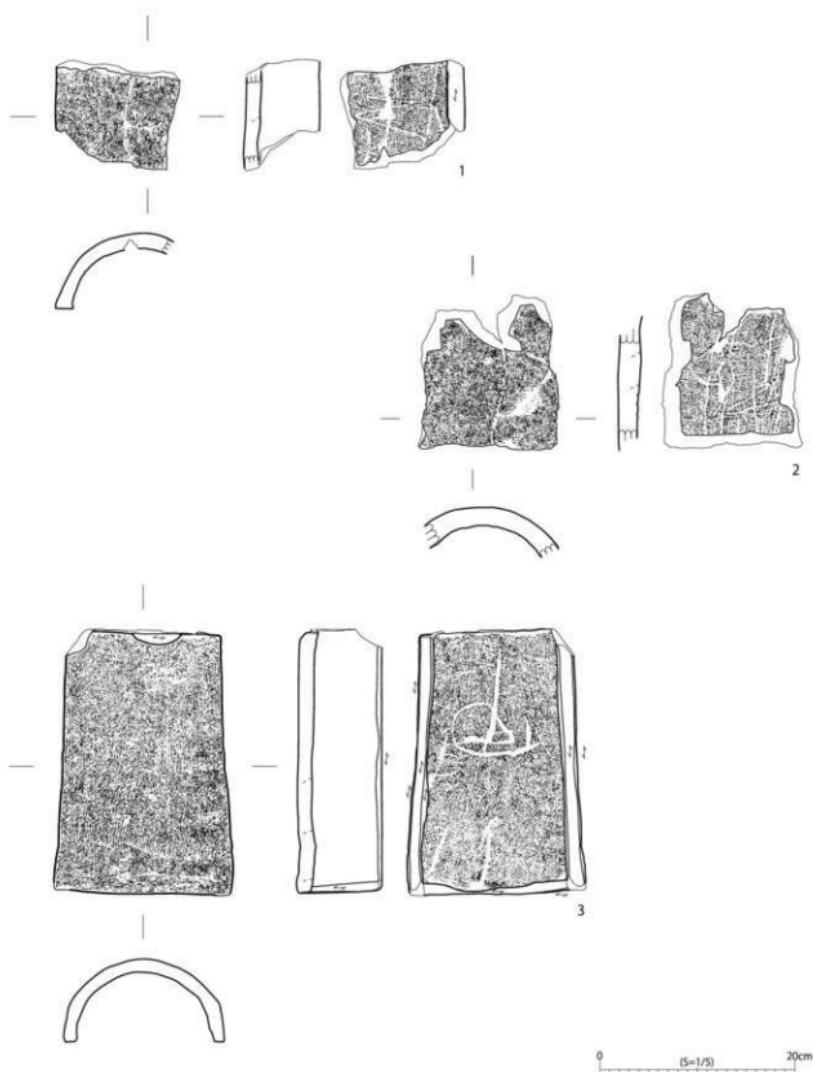


第22図 1号窯跡整地層F下面確認構造平面図

**【隔壁部】** 隔壁は厚さ90～95cm、燃焼部の床面からの高さは1.65mである。通焰孔は、隔壁下部の7本の焰道の上部を完形の平瓦を凹面を上にして覆い、立面形が長方形もしくは下部が窄まる台形で、幅10～20cm、高さ30～45cmである。焼成部に構築されている6本の分焰牀（ロストル）は隔壁下の分焰牀と連続しており、焼成部の焰道は隔壁下の通焰孔にそのまま繋がっている（写真5-4～11）。隔壁下の通焰孔の床面は、燃焼部に向かって17°の角度で傾斜する。隔壁西側端部の床面と、燃焼部の床面には40cmの段差が認められる。隔壁は、分焰牀が構築された上に平瓦を積み上げて構築されている。焰道の上部を覆う完形の平瓦は、調査時の観察では2～3段にわたっており、平瓦とスサ入り粘土を交互に積み上げている（写真5-4）。また、この時に積み上げる平瓦の表裏面の使用に、規則性は認められない。その上部に、平瓦を積み上げた痕跡は認められない。隔壁の燃焼部側表面には、垂直方向に並んだ板状の圧痕が認められる（写真5-4）。板状の圧痕の側面に前後の歪みは認められるが、相互の圧痕に重複は認められない。また、この部分は粘土が一体化しておらず、ほぼ水平方向に不連続面が観察できる（写真5-4）。

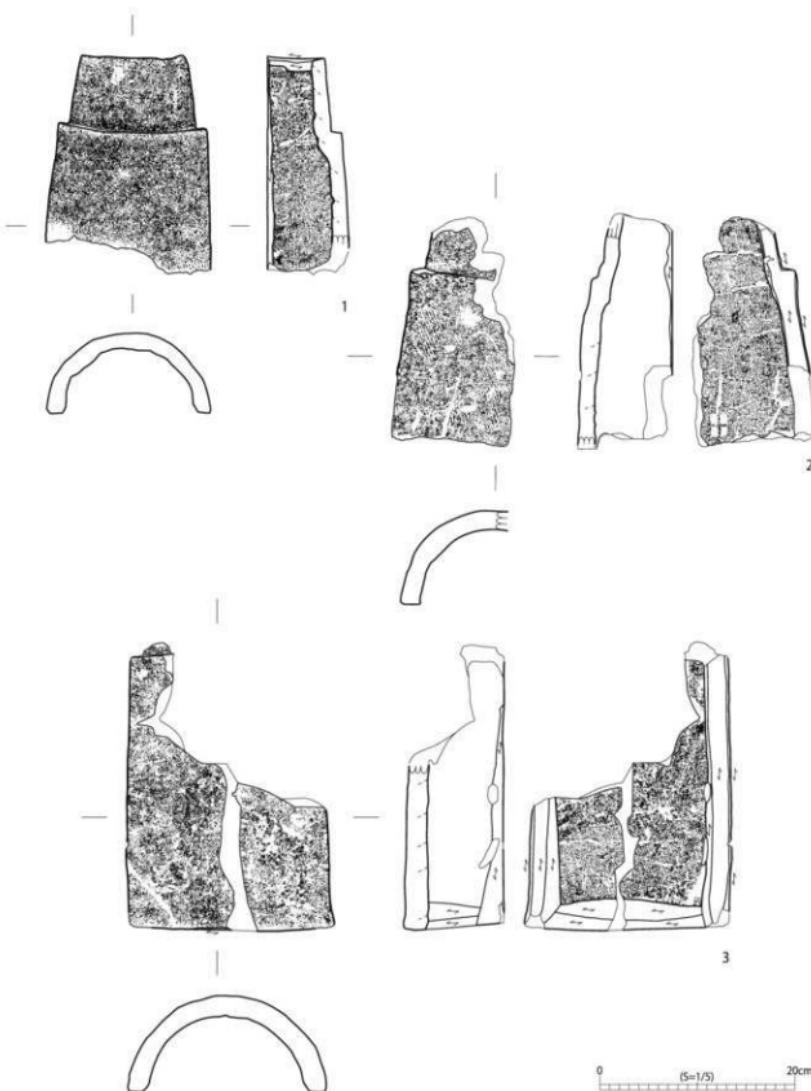
床面・壁面は、被熱により極めて強く赤色化し、硬化している。窯体周囲の被熱状況は、窯体に近い部分では明赤褐色で、離れた部分では褐色である。

構架材は確認されなかった。



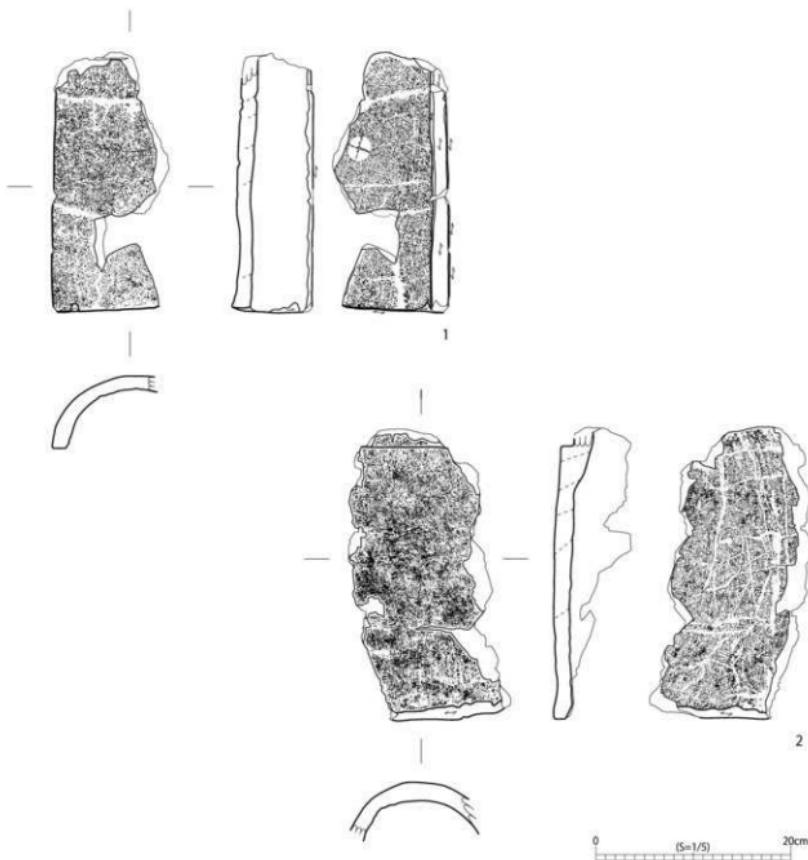
番号	遺構名 グリッド	部位	種別	最大長 (cm)	広場幅 (cm)	狭場幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考			登録 番号	写真 回数
											凹面	凸面	備考		
1	1号窯跡 整地	丸瓦	丸瓦	11.2+ 玉、五、五	11.5+ 玉、五、五	-	1.6 玉、五	-	-	凹面：2.5Y 5/2 凸面：10YR 7/3	凹面：粘土細面→布目面 凸面：側面ハラケズリ	凹面：ヘラ書き「乙」	F-001	1-1 102	
2	1号窯跡 灰瓦	丸瓦	丸瓦	15.9 玉、五、五	14.1+ 玉、五、五	-	2.3 玉、五	-	-	凹面：7.5YR 7/3 凸面：7.5YR 6/4	凹面：粘土細面→布目面 凸面：側面ハラケズリ	凹面：ヘラ書き「伊」	F-002	1-2 101	
3	1号窯跡 灰瓦	丸瓦	丸瓦	27.4+ 玉、五、五	17.8 玉、五、五	13.1 玉、五、五	1.6 玉、五	-	-	凹面：2.5Y 5/1 凸面：5Y 5/1	凹面：布目面 凸面：側面ハラケズリ	凹面：ヘラ書き「乙」 凸面：広場面ヘラケズリ	F-003	1-3 103	

第23図 1号窯跡出土遺物(1)



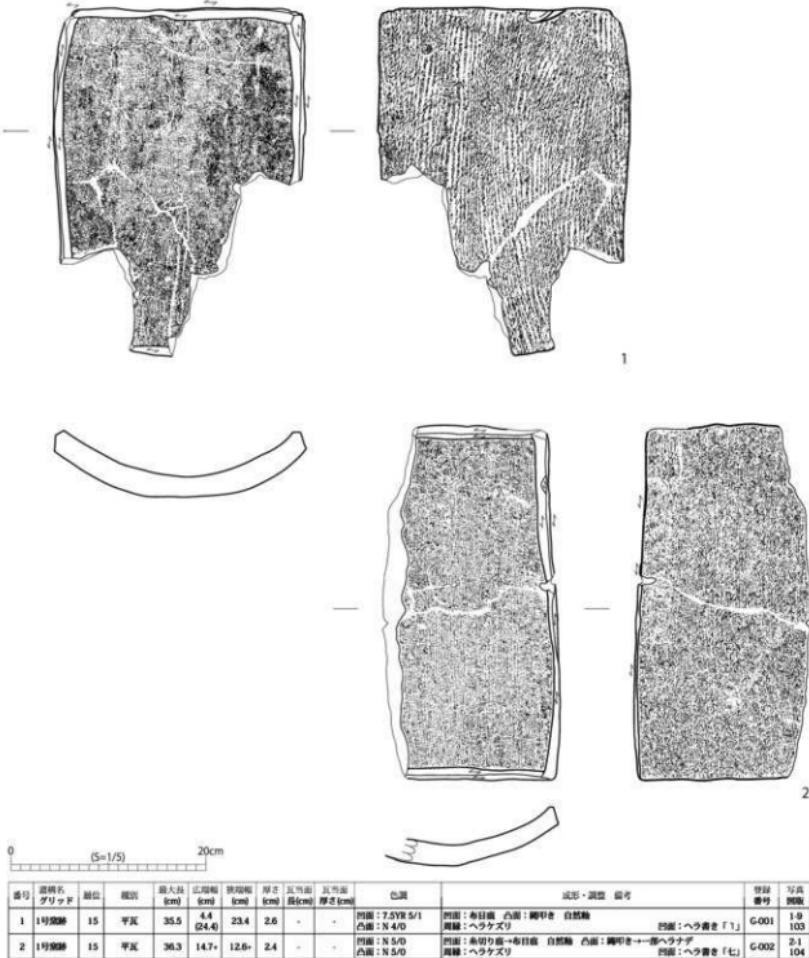
番号	遺物名 グリッド	部位	標印	周長大員 mm	広幅	狭幅	厚さ mm	直面面 mm	反曲面 mm	裏面面 mm	色調	成形・調整 検考			資料 番号	写真 番号
												直面	側面	裏面		
1 1号窯跡 丸瓦	9	丸瓦		22.4 57.8	19.1 玉13.1	1.6 玉10.3	1.1 玉1.6	-	-	-	黒褐色	円筒：10YR 5/1 側面：斜上斜面→舟形底→ナガリ 裏面：側面・弧面面へケズリ	内面：輪印き→ロクロナナデ	外面：輪印き→ロクロナナデ	F-004	1-4
2 1号窯跡	4	丸瓦		23.5 55.9	8.5x 玉7.8	2.1 K.1.4	-	-	-	-	黒褐色	円筒：7.5YR 7/3 側面：斜上斜面→舟形底 裏面：輪印き→ラグゼ	内面：輪印き→ロクロナナデ 外面：輪印き→ロクロナナデ	内面：輪印き→ロクロナナデ 外面：ヘラ書き「X」	F-005	1-5 98
3 1号窯跡	4	丸瓦		29.7 玉1.9	20.9 玉2.9	4.5x 玉	2.1 玉	-	-	-	黒褐色	円筒：10YR 5/1 側面：斜上斜面→舟形底→コビナナ 裏面：輪印き→ロクロナナデ 内面：輪印き→ロクロナナデ 外面：ヘラ書き「X」	内面：輪印き→ロクロナナデ 外面：ヘラ書き「X」	内面：ヘラ書き「X」	F-006	1-6 104

第24図 1号窯跡出土遺物(2)



第25図 1号窯跡出土遺物(3)

**【燃焼部】** 規模は下端で計測して、奥行き 2.7m、幅 1.6m、焚口幅 1.0m、残存する検出面から床面までの壁高 1.5m である。平面形は下端で、焚口から隔壁に向かって広くなる逆台形である。床面は焚口から隔壁に向かって極めて緩やかに、 $1^{\circ}$  の角度で傾斜する。南北両側壁は焼成部・隔壁の側壁から連続しており、縱長に半截した平瓦の凸面を上に置き、長辺を側壁の面に合わせ、スサ入り粘土と交互に積み重ねている。表面には、スサを入れていない粘土を貼っている。隔壁付近の両側壁は、北側壁では床面から 1.1m まで、南側壁では床面から 1.2m まで内湾気味に立ち上がっている。その両側壁上部では、完形の平瓦の凸面を上にして、燃焼部の中央に向かって迫り出すように積んでいる部分が認められる。隔壁の前面に接した通縫孔の上部で、凸面を上にした状態で平瓦が 5段程度重なった状況を確認した。出土状況等から判断して、燃焼部がある程度埋没した後に、天井部が落下したもの



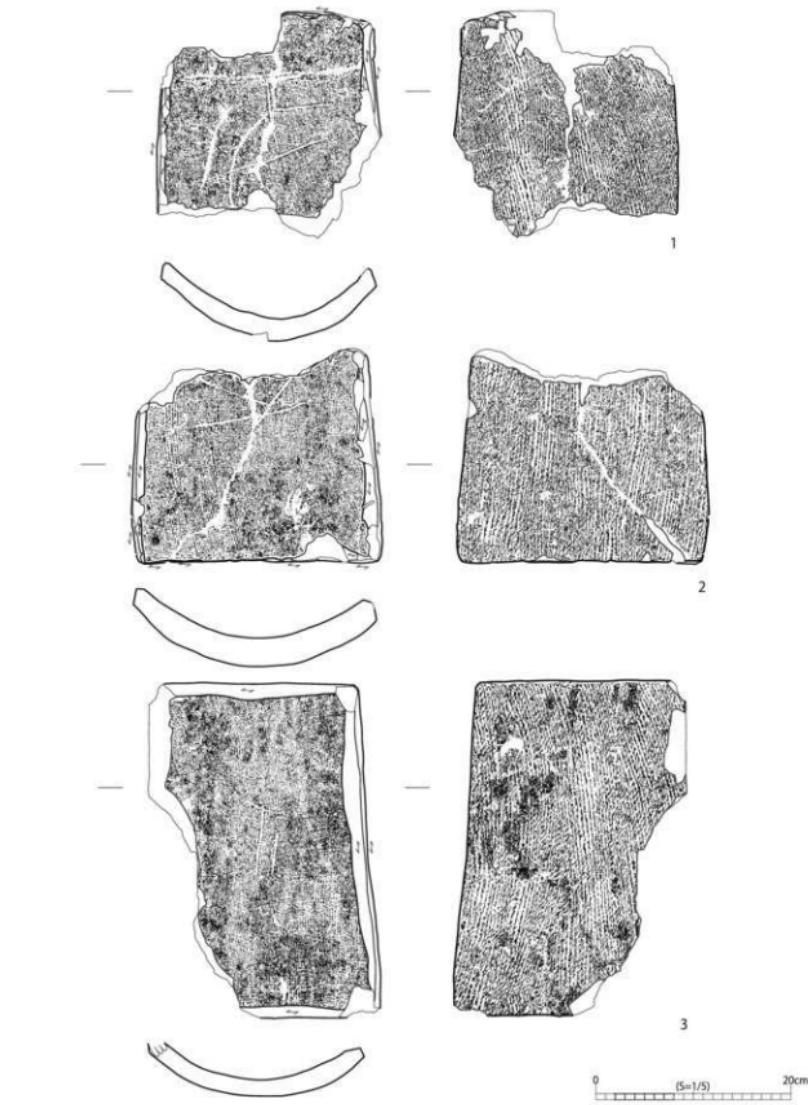
第26図 1号窯跡出土遺物(4)

であると思われる。

焚口北側壁付近には安山岩系の石、その南側に凝灰岩質砂岩系の石を確認した。また、焚口南側壁付近の擾乱から安山岩系の石（長さ 50cm×幅 35cm×厚さ 20cm）が出土しており、焚口に係るものが移動されたものと思われる。

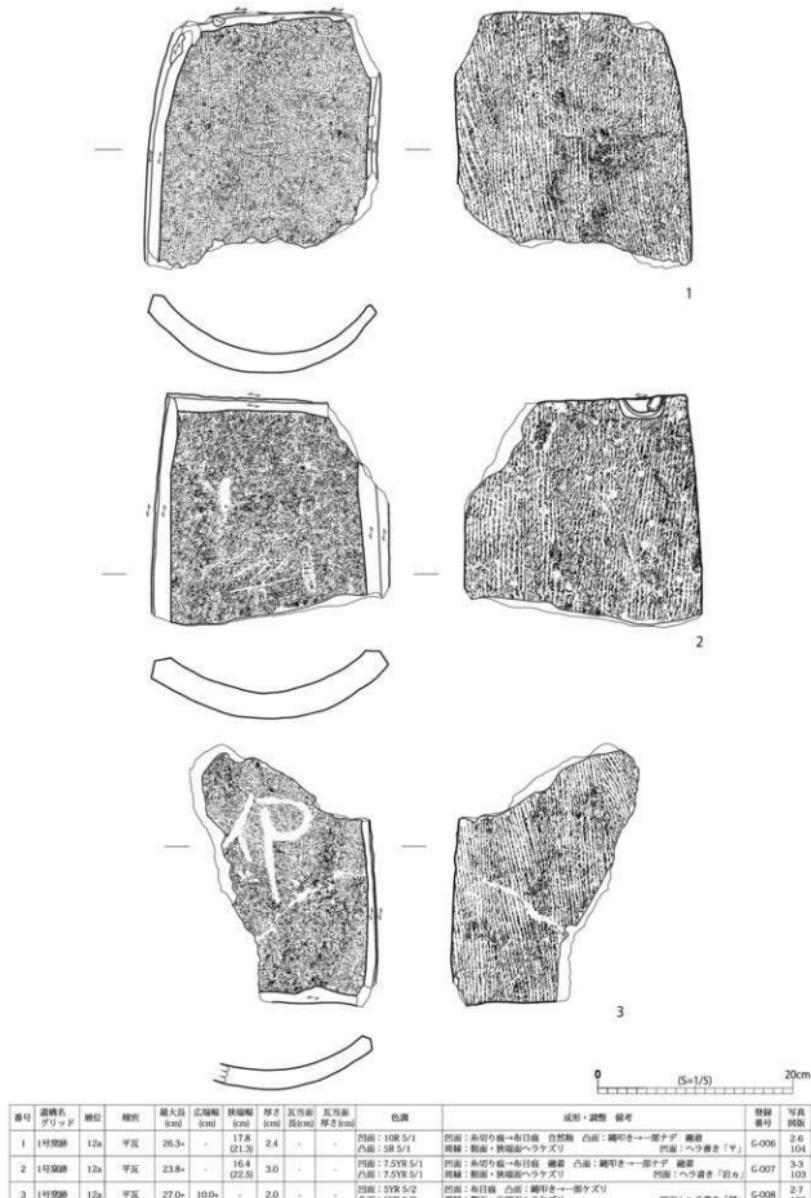
床面・壁面は、被熱によりやや強く赤色化し、硬化している部分が認められる。窯体周囲の被熱状況は、窯体に近い部分ではにぶい赤褐色で、離れた部分では明赤褐色である。

構架材は、北側壁外（にぶい黄橙色粘土部分）で 1ヶ所検出した（写真 6-4）。構架材は炭化し、直径は径 1cm 前後で、横断面は円形である。



第27図 1号窯跡出土遺物(5)

番号	遺物名	部位	種別	最大長 [cm]	式幅 [cm]	狭幅 [cm]	厚さ [cm]	瓦当面	瓦当面	色調	成形・調整・備考			登録番号	写真
											側面	底面	測定		
1	1号瓦頭	15	平瓦	23.2+	-	9.0 (20.9)	2.3	-	-	黒面: 5/0 白面: 5/0	側面: 布目板 底面: 鋼甲板・鉄塊油(テクスア)	測定: ヘラ書き「上」	G-003	2-2 104	
2	1号瓦頭	15	平瓦	22.0+	23.6	-	3.0	-	-	黒面: 5/0 白面: 5/0	側面: 布目板 底面: 鋼甲板	測定: ヘラ書き「大」	G-004	2-3 103	
3	1号瓦頭	14	平瓦	34.3	9.9 (23.9)	19.5 (21.5)	2.2	-	-	黒面: 7.5YR 6/3 白面: 4YR 6/3	側面: 布目板 底面: 鋼甲板→漆ナデ	測定: ヘラ書き「上」	G-005	2-4 102	



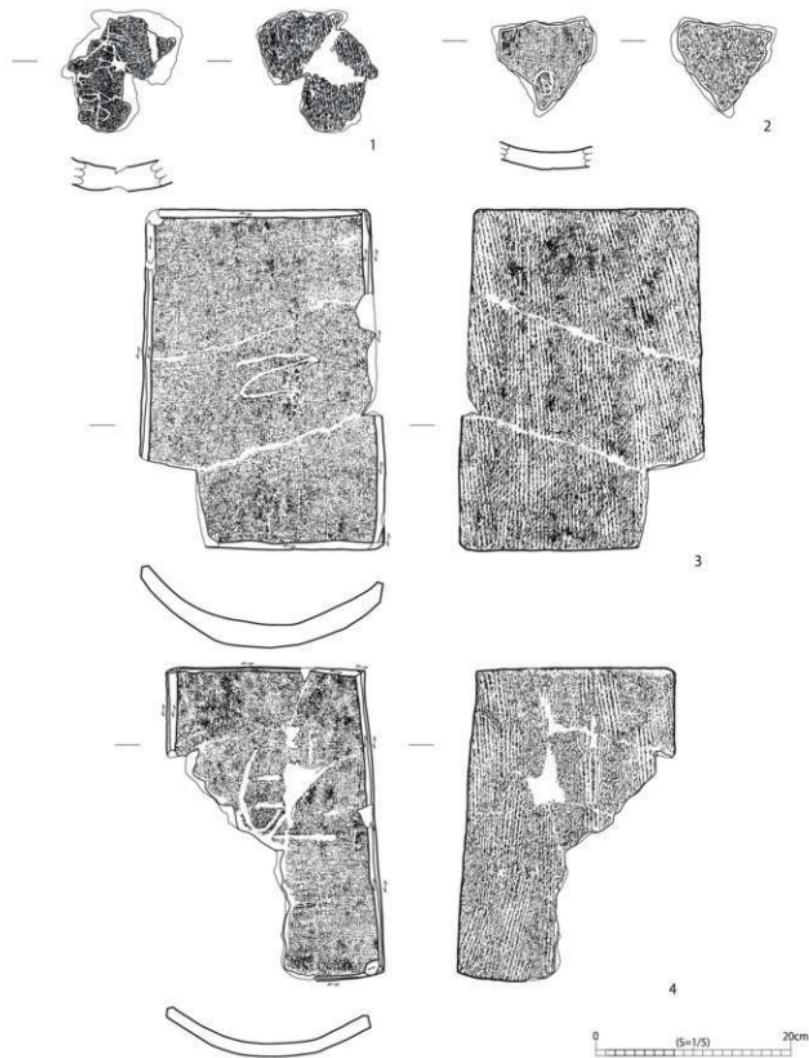
第28図 1号窓跡出土遺物(6)



第29図 1号窯跡出土遺物(7)

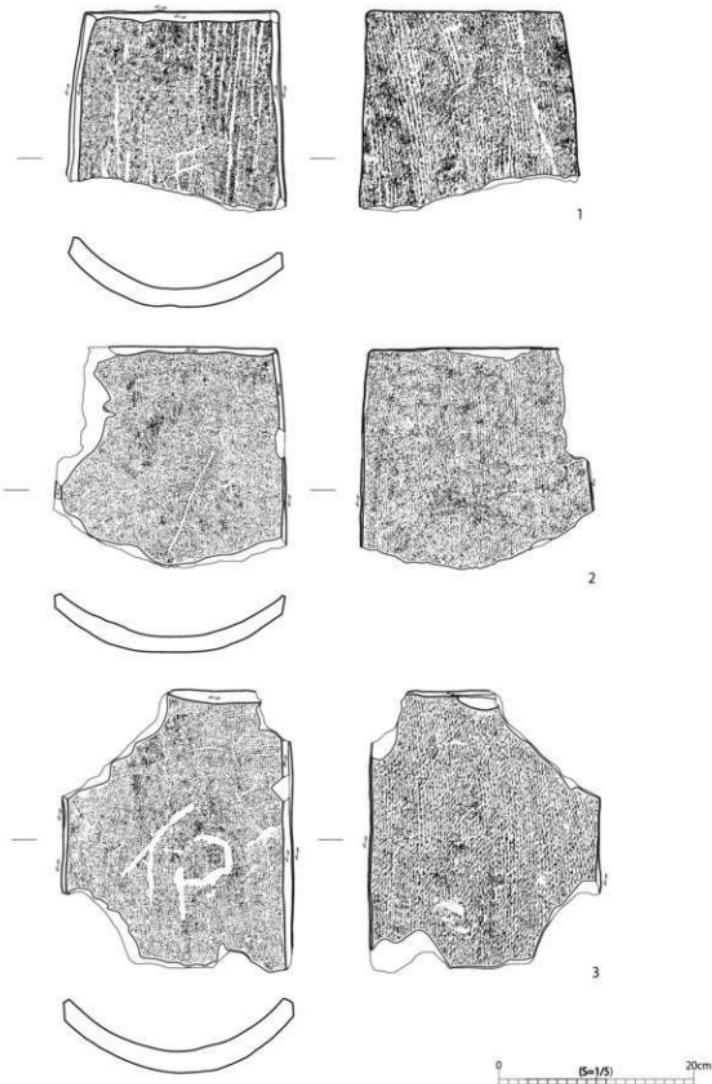
**【前庭部】** 燃焼部北側壁から焚口に統く壁は北側に開き、燃焼部南側壁から焚口で開く壁はやや南側に外傾して前庭部へ続いている。前庭部は、焚口付近では南北 2.2m・東西 2.0m のほぼ方形、その西側斜面では径 2.0m の不整円形である。接続部分に連続性は認められないが、土層の堆積状況から一連の施設と考えられる。床面に凹は認められず、西側に向かって緩やかに傾斜している。

**【堆積層】** 大別 7 層、細別 18 層を確認した。大別 1 層：流入堆積層。大別 2 層：灰白色火山灰層。流入堆積層。大別 3 層：瓦類を極めて多量に混入する。焼成部の天井材・壁材を多量に含む層（以下、本章ではこの種の層位を窯体崩落層と称する）。大別 4 層：流入堆積層。大別 5 層：燃焼部の天井材を多量に含む窯体崩落層。大



第30図 1号窯跡出土遺物(8)

番号	遺物名 グリッド	部位	種別	最大径 (cm)	正面幅 (cm)	側面幅 (cm)	厚さ 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整・備考		登録 番号	写真 番号
											凹面	凸面		
1	1号窯跡	11	平瓦	12.5	12.4+	-	2.7	-	-	黒褐色	N 4/6	凹面: 布目模 凸面: 鋼印模	4-011	3-1 106
2	1号窯跡	10	平瓦	10.2+	10.3+	-	1.8	-	-	黒褐色	10YR 5/2	凹面: 布目模 凸面: 鋼印模	4-012	3-4 100
3	1号窯跡 瓦当	9	平瓦	34.9	16.9 (23.4)	21.5	2.5	-	-	黒褐色	5YR 5/2	凹面: 布目模→一部ナデ 凸面: 鋼印模 周縁: ヘラタズリ	4-013	3-6 102
4	1号窯跡 瓦当	9	平瓦	32.2	6.9 (23.4)	20.4	1.3	-	-	黒褐色	7.5YR 5/1	凹面: 布目模→一部ナデ 凸面: 鋼印模 周縁: ヘラタズリ	4-014	3-2 102



番号	遺物名 グリッド	部位	縦長 幅	横幅 幅	厚さ 厚さ	瓦当面 瓦当面	色調	成形・調型 備考		登録 番号	写真 図版
								内面	外面		
1 1号298 瓦当	9	平瓦	20.7+	-	19.0 (22.1)	2.1 2.2	-	内面：N.S./D 外面：2.75W 6/1 内面：2.75W 6/1 外面：ヘタ書き「井」	内面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 内面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「井」	G-015 101	4-1 101
2 1号299 瓦当	9	平瓦	22.6+	-	17.0 (22.1)	2.2	-	内面：2.5W 8/2 外面：10W 4/2 内面：10W 4/2 外面：ヘタ書き「人」	内面：ヘタ書き「人」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「人」+一部ナデ 内面：ヘタ書き「人」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「人」	G-016 105	4-3 105
3 1号299 瓦当	9	平瓦	29.0+	-	8.6 (23.1)	2.6	-	内面：7.5W 5/1 外面：7.5W 5/1 内面：7.5W 5/1 外面：ヘタ書き「井」	内面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 内面：ヘタ書き「井」+一部ナデ 外面：ヘタ書き「井」	G-017 103	4-4 103

第31図 1号窯跡出土遺物(9)